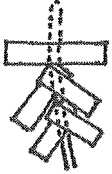
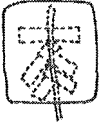
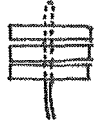
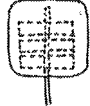

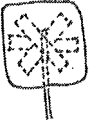
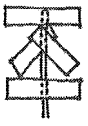
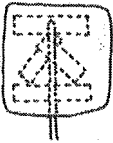



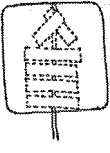
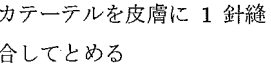


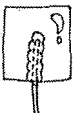
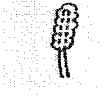
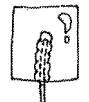
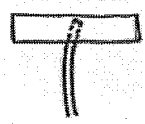
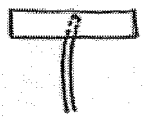
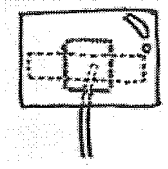
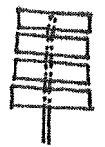
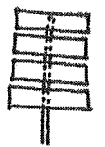
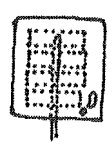

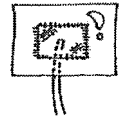

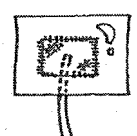
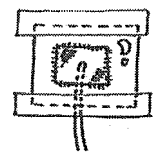



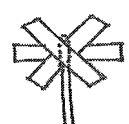
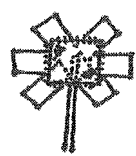
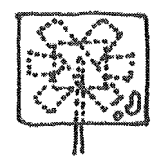
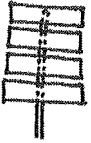
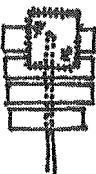
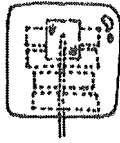
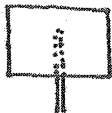
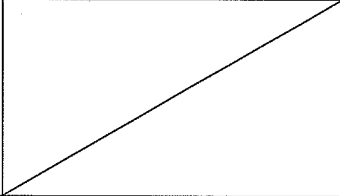
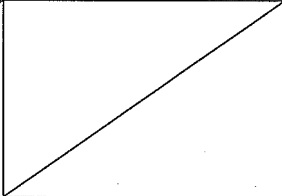
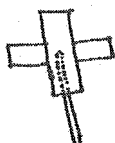
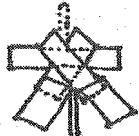
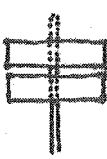
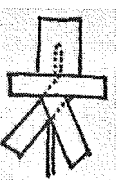





手順 1	手順 2	手順 3	番号
絆創膏を貼る 	透明フィルムを貼る 		9
絆創膏を貼る 	透明フィルムを貼る 		10
絆創膏を貼る 	透明フィルムを貼る 		11
絆創膏を貼る 	透明フィルムを貼る 		12
絆創膏を貼る 	透明フィルムを貼る 		13
絆創膏を貼る 	透明フィルムを貼る 		14
カテーテルを皮膚に 1 針縫合してとめる 	透明フィルムを貼る 		15
接着剤使用 (アロンアルファ) 	透明フィルムを貼る 		16

手順 1	手順 2	手順 3	番号
接着剤使用 (アロンアルファ) 	透明フィルムを貼る 	/	17
絆創膏を貼る 	接着剤 (ノベクタンスプレー) 	透明フィルムを貼る 	18
絆創膏を貼る 	接着剤 (ノベクタンスプレー) 	透明フィルムを貼る 	19
止血圧迫材料使用 (ガーゼ・綿球) 	透明フィルムを貼る 	/	20
止血圧迫材料使用 (ガーゼ) 	透明フィルムを貼る 	フィルム上下に絆創膏を貼る 	21
止血圧迫用材料使用 (綿球) 	絆創膏を貼る 	透明フィルムを貼る 	22
絆創膏を貼る 	止血圧迫用材料の使用 (ガーゼ) 	透明フィルムを貼る 	23

手順1	手順2	手順3	番号
絆創膏を貼る 	止血圧迫材料の使用（ガーゼ） 	透明フィルムを貼る 	24
絆創膏 1 枚貼る 			25
絆創膏 2 枚貼る 			26
絆創膏 2 枚貼る 			27
絆創膏 2 枚貼る 			28
絆創膏 2 枚貼る 			29
絆創膏 3 枚貼る 			30

手順1	手順2	手順3	番号
絆創膏 3 枚貼る 			31
絆創膏 3 枚貼る 			32
絆創膏 4 枚貼る 			33
止血圧迫用材料使用 (ガーゼ) 	絆創膏を貼る 		34
止血圧迫用材料使用 (綿球) 	絆創膏を貼る 		35
絆創膏 3 枚貼る 	止血圧迫用材料使用 (ガーゼ) 	透明フィルムを貼る 	36

身体の抑制・固定法

チューブやカテーテルが挿入されている次の4つの状況にある新生児(低出生体重児を含む)の
 身体の抑制・固定法について、体位別(仰臥位・側臥位・腹臥位)に答えてください。

必ず、3つ、選んでください。

- * 回答される場合には、次の順番で進めると、わかりやすいと思います：
 ① まず、表の右端の「抑制・固定の範囲」を選ぶ。
 ② 次に、選んだ範囲の中で、方法を選ぶ。

A:新生児の状況は、気管内挿管・血管確保・栄養カテーテル挿入中です。

適切と思われる方法を、各々3つ選び、
 適切と思われる順に下の空欄に、番号を書いてください。

	1位	2位	3位
仰臥位 (番号:1~25)			
側臥位 (番号:26~38)			
腹臥位 (番号:39~97)			

B:新生児の状況は、血管確保と栄養カテーテル挿入中です。

適切と思われる方法を、各々3つ選び、
 適切と思われる順に下の空欄に、番号を書いてください。

	1位	2位	3位
仰臥位 (番号:1~25)			
側臥位 (番号:26~38)			
腹臥位 (番号:39~97)			

C:新生児の状況は、栄養カテーテル挿入中です。

適切と思われる方法を、各々3つ選び、
 適切と思われる順に下の空欄に、番号を書いてください。

	1位	2位	3位
仰臥位 (番号:1~25)			
側臥位 (番号:26~38)			
腹臥位 (番号:39~97)			

D:新生児の状況は、血管確保中です。

適切と思われる方法を、各々3つ選び、
 適切と思われる順に下の空欄に、番号を書いてください。

	1位	2位	3位
仰臥位 (番号:1~25)			
側臥位 (番号:26~38)			
腹臥位 (番号:39~97)			

ありがとうございました。

1. 仰臥位の場合

番号	抑制・固定の仕方	抑制・固定の範囲
1	ボジョニングのみ実施する(囲い込み・包み込み・ネステイングなど)	
2	何もしない(ボジョニングや、次の方法を含む抑制・固定法を実施しない)	
3	頭部左右または頭頂部に砂嚢をあてる	頭部のみ
4	気管内チューブ固定用具を用いて固定する	
5	幅広い布で顔部から頭部を覆い、布の端をマトレスなどの下に挟む	
6	シーネの先をコックヘル等でシーツに止める	上肢のみ
7	腕にガーゼや抑制紐を巻き、その先をコックヘル等で砂嚢やシーネに止める、または手入れ意に挟む	
8	股に砂嚢をあてる	股のみ
9	頭部左右または頭頂部に砂嚢をあて、上肢はシーネの先をコックヘル等でシーツに止める	
10	頭部左右または頭頂部に砂嚢をあて、腕にガーゼや抑制紐を巻き、その先をコックヘル等で砂嚢やシーネに止める、または手入れ意に挟む	頭部と上肢
11	気管内チューブ固定用具を用いて固定し、上肢はシーネの先をコックヘル等でシーツに止める	
12	気管内チューブ固定用具を用いて固定し、腕にガーゼや抑制紐を巻き、その先をコックヘル等で砂嚢やシーネに止める、または手入れ意に挟む	
13	幅広い布で顔部から頭部を覆い、布の端をマトレスなどの下に挟む、上肢はシーネの先をコックヘル等でシーツに止める	
14	幅広い布で顔部から頭部を覆い、布の端をマトレスなどの下に挟む、腕にガーゼや抑制紐を巻き、その先をコックヘル等に砂嚢やシーネに止める、または手入れ意に挟む	
15	頭部左右または頭頂部に砂嚢をあて、股に砂嚢をあてる	頭部・股
16	気管内チューブ固定用具を用いて固定し、股に砂嚢をあてる	
17	幅広い布で顔部から頭部を覆い、布の端をマトレスなどの下に挟む、股に砂嚢をあてる	
18	シーネの先をコックヘル等でシーツに止め、股に砂嚢を置く	上肢・股
19	腕にガーゼや抑制紐を巻き、その先をコックヘル等で砂嚢やシーネに止める、または手入れ意に挟む、股に砂嚢を置く	
20	頭部左右または頭頂部に砂嚢をあて、上肢はシーネの先をコックヘル等でシーツに止め、股に砂嚢をあてる	頭部・上肢・股
21	頭部左右または頭頂部に砂嚢をあて、腕にガーゼや抑制紐を巻き、その先をコックヘル等で砂嚢やシーネに止める、または手入れ意に挟む、股に砂嚢をあてる	
22	気管内チューブ固定用具を用いて固定し、上肢はシーネの先をコックヘル等でシーツに止め、股に砂嚢をあてる	
23	気管内チューブ固定用具を用いて固定し、腕にガーゼや抑制紐を巻き、その先をコックヘル等で砂嚢やシーネに止める、または手入れ意に挟む、股に砂嚢をあてる	
24	幅広い布で顔部から頭部を覆い、布の端をマトレスなどの下に挟む、上肢はシーネの先をコックヘル等でシーツに止め、股に砂嚢をあてる	
25	幅広い布で顔部から頭部を覆い、布の端をマトレスなどの下に挟む、腕にガーゼや抑制紐を巻き、その先をコックヘル等で砂嚢やシーネに止める、または手入れ意に挟む、股に砂嚢をあてる	

2. 側臥位の場合

番号	抑制・固定の仕方	抑制・固定の範囲
26	ボジョニングのみ実施する(囲い込み・包み込み・ネステイングなど)	
27	何もしない(ボジョニングや、次の方法を含む抑制・固定法を実施しない)	
28	後頭部に砂嚢をあてる	頭部のみ
29	シーネの先をコックヘル等でシーツに止める	上肢のみ
30	腕にガーゼや抑制紐を巻き、その先をコックヘル等で砂嚢やシーネに留める、または手入れ意に挟む	
31	背部に小枕やボジョニング用品を当てる	背部のみ
32	後頭部に砂嚢をあて、上肢はシーネの先をコックヘル等でシーツに止める	
33	後頭部に砂嚢をあて、上肢は腕にガーゼや抑制紐を巻き、その先をコックヘル等で砂嚢やシーネに留める、または手入れ意に挟む	頭部・上肢
34	後頭部に砂嚢をあて、背部に小枕やボジョニング用品を当てる	頭部・背部
35	シーネの先をコックヘル等でシーツに止め、背部に小枕やボジョニング用品を当てる	上肢・背部
36	腕にガーゼや抑制紐を巻き、その先をコックヘル等で砂嚢やシーネに留める、または手入れ意に挟む、背部に小枕やボジョニング用品を当てる	
37	後頭部に砂嚢をあて、上肢はシーネの先をコックヘル等でシーツに止め、背部に小枕やボジョニング用品を当てる	頭部・上肢・背部
38	後頭部に砂嚢をあて、上肢は腕にガーゼや抑制紐を巻き、その先をコックヘル等で砂嚢やシーネに留める、または手入れ意に挟む、背部に小枕やボジョニング用品を当てる	

平成 16 年 11 月 5 日

NICU 看護師長 様

「NICU 看護技術標準化によるエビデンスに基づいた安全対策に関する研究」
第 2 回調査のお願い

前略

皆様にはご多忙の中「NICU 看護技術標準化によるエビデンスに基づいた安全対策に関する研究」第 1 回調査にご協力いただきありがとうございます。第 1 回調査では 101 施設からご回答をいただきました。早急に集計を終え、このたび皆様のお手元に第 2 回調査用紙等をお送りいたします。

第 2 回調査は、第 1 回調査結果、および、方法決定に際しての評価項目を参考に再検討していただき、第 1 回と同様の手順で、質問にお答えください。

第 2 回調査の回答内容が、第 1 回と違っても、同じであっても結構です。

第 2 回調査の返送は 11 月 15 日 (月) までによるしくお願いいたします。返送までの期日が短いことをご負担をおかけいたしますが、どうぞご協力のほど、よろしくお願ひ申し上げます。

研究代表者 横尾京子

連絡先：〒734-8551 広島市南区霞 1-2-3

広島大学大学院保健学研究科

横尾京子

TEL/FAX : 082-257-5360

E-mail yokoo@hiroshima-u.ac.jp

第1回調査の結果の見方と、第2回調査の回答方法

経末梢中心静脈ライン(Pカテーテル)の固定法

回答用紙

1位から3位を選び、第2回調査の欄に記入してください。

今回の第2回調査のあなたの意見を書いてください。

固定法No.	第1回調査結果			第4回調査のあかたの順位	第2回調査
	順位	総得票数	順位		
1	1	560	1	43	
2	2	305	2	29	3
3	13	75	12	9	
4	5	185	5	23	2
5	3	270	3	27	1
6	4	225	4	24	
7	31	5	29	1	
8	17	40	16	5	
9	9	110	9	11	
10	1	5	31	1	
11	2	25	22	2	
12	21	25	23	2	3
13	29	10	32	1	
14	23	15	26	2	
15	0	0	26	2	
16	0	0	27	1	
17	23	15	27	1	
18	0	0	27	1	
19	23	15	28	1	
20	0	0	28	1	
21	19	30	20	3	

第1回調査であなたが1位から3位として選択した方法

1位から3位まで選択した施設数に、1位は15点、2位は10点、3位は5点と、配点して、総和を出した場合の順位

1位、2位、3位いずれでも、この方法を選択した施設数の総和の順位。

気管内チューブの固定法

第2回調査

次のA・Bの状況にある新生児（低出生体重児を含む）の気管内チューブの固定法について、適していると思われる方法3つを選び、適していると思われる順に、番号を回答用紙の第2調査欄に書いてください。3つ選ぶのが難しい場合は1つないし2つでも結構です。ただし、必ず順位づけをしてください。

（固定法は、「報告書」の6～12ページをご参照ください。）

A：新生児の状況は、体重が小さい・体動が少ない状態です。

B：新生児の状況は、体重が大きい・体動が多い状態です。

第2回調査では、第1回調査結果と、方法決定に際しての評価項目を参考に、再検討してください。また、最後の追加質問にもお答えください。

気管内チューブ固定法の評価項目

- 1) 絆創膏を貼る位置が唾液で汚染されないか
- 2) チューブを左右・上下に引き合う力は均等か
- 3) 適正なチューブ挿入長端が固定絆創膏の端と一致しているか
- 4) 皮膚に付着する絆創膏の面積は必要最小限か
- 5) 絆創膏により皮膚を引き過ぎていないか
- 6) 絆創膏や使用物品による皮膚等への圧迫はないか
- 7) 顔の向きを変えやすいか
- 8) 絆創膏を同じ位置に重ねて貼る場合、その効果が期待できるか
- 9) 固定物品によってチューブが破損（穴があくなど）されていないか
- 10) 固定物品によってチューブ内腔が狭くなることはないか
- 11) コストはどうか

気管内チューブ固定法

回答用紙

1位から3位を選び、第2回調査の欄に記入してください。

A: 体重や体動が小さい場合

順位No.	第1回調査結果			第2回調査
	順位	総得票数	第1回調査の順位から得票数	
I 1	6	145	10	13
I 2	13	90	11	10
I 3	25	40	17	5
I 4	33	10	30	1
I 5	23	45	26	3
I 6	9	120	6	14
I 7	11	105	12	9
I 8	10	110	6	14
II 1	3	180	5	16
II 2	4	160	3	18
II 3	2	195	2	20
II 4	33	10	30	1
II 5	23	45	23	4
II 6	8	100	6	14
II 7	1	370	1	29
II 8	12	100	12	9
II 9	21	50	15	7
II 10	5	150	4	17
II 11	19	55	17	5
II 12	17	60	17	5
II 13	14	75	12	9
II 14	17	60	17	6
III 1	21	50	17	6
III 2	35	5	30	1
III 3	29	15	30	1
III 4	29	15	30	1
III 5	28	20	29	3
III 6	35	5	30	1
IV	29	15	29	2
V	15	70	15	7
VI 1	7	140	6	14
VI 2	25	40	23	4
VI 3	27	30	28	2
VII	29	15	30	1
VIII	19	55	23	4
IX	16	65	17	5
X	16	65	17	5

B: 体重や体動が大きい場合

順位No.	第1回調査結果			第2回調査
	順位	総得票数	第1回調査の順位から得票数	
I 1	33	10	33	1
I 2	30	20	31	2
I 3	35	0	/	0
I 4	36	0	/	0
I 5	33	10	31	2
I 6	21	45	20	5
I 7	27	30	25	3
I 8	30	20	25	3
II 1	4	180	5	17
II 2	5	160	3	18
II 3	6	140	6	13
II 4	21	45	22	4
II 5	21	45	22	4
II 6	8	125	6	13
II 7	1	405	1	32
II 8	9	110	10	11
II 9	10	105	6	13
II 10	16	60	15	7
II 11	19	50	18	6
II 12	11	90	15	7
II 13	14	65	11	9
II 14	12	80	11	9
III 1	14	65	13	8
III 2	18	55	13	8
III 3	21	45	20	5
III 4	32	15	33	1
III 5	19	50	22	4
III 6	28	25	25	3
IV	28	25	25	3
V	7	130	9	12
VI 1	2	210	2	19
VI 2	3	205	3	18
VII	25	35	25	3
VIII	25	35	25	3
IX	16	60	18	6
X	13	75	15	7

<追加質問>

あなたの施設では、新生児の身体や体動の大きさによって、固定方法を定める方針ですか。該当する方に○を付けてください。

1. 基本的に変える
2. 基本的に変えない

栄養カテーテルの固定法

第2回調査

新生児（低出生体重児を含む）に適した栄養カテーテルの固定法について
経口挿入・経鼻挿入別に答えてください。

第2回調査では、第1回調査結果と、方法決定に際しての評価項目を参考に、
再検討してください。

1. 口挿入について、第2回調査で新しい選択肢0-1と0-2の2項目が増えています。適切だと思ふ方法を、図1で示した方法から3つ選び、適していると思ふ順に、番号を回答用紙の第2回調査欄に書いてください。3つ選ぶのが難しい場合は1つないし2つでも結構です。ただし、必ず順位づけをしてください。

栄養カテーテル（口挿入）の固定法の評価項目

- 1) 絆創膏を貼る位置が唾液で汚染されないか
- 2) 皮膚に付着する絆創膏の面積は必要最小限か
- 3) 顔の向きを変えやすいか

2. 鼻挿入について適切だと思ふ方法を、図2で示した方法から3つ選び、適していると思われる順に、番号を回答用紙の第2回調査欄に書いてください。3つ選ぶのが難しい場合は1つないし2つでも結構です。ただし、必ず順位づけをしてください。

栄養カテーテル（鼻挿入）の固定法の評価項目

- 1) 絆創膏を貼る位置が唾液で汚染されないか
- 2) 皮膚に付着する絆創膏の面積は必要最小限か
- 3) 絆創膏による鼻部への圧迫はないか

栄養カテーテルの固定法

回答用紙

1位から3位を選び、第2回調査の欄に記入してください。

口挿入の場合

固定法No.	第1回調査結果			第2回調査		
	順位	総得点数	順位	総得点数	順位	総得点数
1	13	100	12	11		
2	7	150	8	15		
3	6	185	6	17		
4	12	105	14	10		
5	15	90	16	9		
6	9	140	11	13		
7	18	25	18	3		
8	5	195	5	18		
9	1	400	1	40		
10	11	125	9	14		
11	3	300	3	25		
12	4	225	4	20		
13	17	45	17	6		
14	2	340	2	33		
15	16	85	14	10		
16	7	150	7	16		
17	19	20	20	2		
18	10	130	9	14		
19	19	20	18	3		
20	13	100	12	11		
0-1						
0-2						

鼻挿入の場合

固定法No.	第1回調査結果			第2回調査		
	順位	総得点数	順位	総得点数	順位	総得点数
21	4	205	5	18		
22	3	245	3	20		
23	8	130	8	13		
24	18	60	19	5		
25	16	75	13	9		
26	24	15	23	2		
27	16	75	16	8		
28	9	120	10	11		
29	2	320	2	30		
30	13	90	10	11		
31	1	390	1	37		
32	11	110	10	11		
33	6	155	6	17		
34	20	40	18	6		
35	14	80	13	9		
36	7	145	7	16		
37	21	25	20	4		
38	21	25	22	3		
39	21	25	23	2		
40	10	115	9	12		
41	5	190	3	20		
42	12	95	13	9		
43	14	80	16	8		
44	24	15	25	1		
45	19	45	20	4		

図1 栄養カテーターの固定法 (経口の場合)

番号	固定の仕方	図
0-1	口角から出たカテーターを鼻の下で縦長に貼る	0-1
1	口角から出たカテーターを鼻筋で縦長に貼る	1
2	口角から出たカテーターを鼻筋で縦長に貼る	2
3	正中から出たカテーターを下顎で縦長に貼る	3
4	正中から出たカテーターを下顎で縦長に貼る	4
5	口角から出たカテーターを鼻筋で貼る	5
6	正中から出たカテーターを下顎で貼る	6
7	正中から出たカテーターを上側で1回巻きつけ、下側は下顎で貼る	7
0-2	口角から出たカテーターを1回巻き鼻筋に貼る。カテーターを鼻下から反対側の頬部にまわし、もう1枚を1回巻き頬部に貼る	0-2
8	口角から出たカテーターを1回巻き頬部に貼る。もう1枚も同じように間隔をあけて貼る	8
9	口角から出たカテーターを1回巻き頬部に貼る。もう1枚は間隔をあけて縦長に貼る	9
10	口角から出たカテーターを鼻筋で縦長に貼る。カテーターを鼻下から反対側の頬部にまわし、もう1枚を縦長に貼る	10
11	口角から出たカテーターを1回巻き、下顎で縦長に貼る。カテーターを鼻下から反対側の頬部にまわし、もう1枚をカテーターに巻いて貼る	11
12	正中から出たカテーターを1回巻き、下顎で縦長に貼る。もう1枚はその上に重ねて貼る	12
13	正中から出たカテーターを鼻筋で、間隔をあけて縦長に貼る	13
14	正中から出たカテーターを鼻筋で、間隔をあけて縦長に貼る	14
15	正中から出たカテーターを鼻筋に貼り、もう1枚は頬筋で貼る	15
16	口角から出たカテーターを鼻筋で縦長に貼る。もう1枚は頬筋で貼る	16
17	正中から出たカテーターに巻いた糸の両端を鼻筋で縦長に貼る	17
18	1枚は口角でカテーターを1回巻き貼る。カテーターを下顎から反対側にまわし、もう1枚もカテーターを1回巻き貼る。3枚目で縦長に貼る	18
19	口角から出たカテーターを、3枚目のようにカテーターに1回巻き、間隔をあけて口角付近から頬筋に貼る	19
20	口角から出たカテーターを1回巻き貼る。カテーターを下顎にまわし2枚目で縦長に貼る。3枚目は頬筋で縦長に貼る	20

図2 栄養カテーターの固定法 (経鼻の場合)

番号	固定の仕方	図
21	鼻下から頬筋にかけてカテーター上を縦長に貼る	21
22	同上	22
23	カテーターに1回巻いて鼻下に貼る	23
24	切込みのない部分を鼻筋に貼り、切込みがある部分をカテーターに巻きつける	24
25	同上	25
26	同上	26
27	鼻の上側を鼻筋に貼り、下側はカテーターに巻く	27
28	1枚はカテーターに1回巻いて鼻下に縦長に貼り、その上にもう1枚を貼る	28
29	1枚はカテーターに1回巻いて鼻下から頬筋に巻き、頬筋に貼る	29
30	1枚はカテーターに1回巻いて鼻下から頬筋に縦長に貼り、もう1枚も同じように間隔をあけて貼る	30
31	1枚はカテーターに1回巻きその両側の鼻筋に貼り、もう1枚は鼻下に縦長に貼る	31
32	1枚は鼻下に縦長に貼り、もう1枚はカテーターに1回巻き頬筋に貼る	32
33	頬筋に縦長に1枚ずつ、間隔をあけて貼る	33
34	頬筋に縦長に1枚ずつ、間隔をあけて貼る	34
35	1枚は鼻下に縦長に貼り、ハート型は頬筋に貼る	35
36	切込みのない部分を鼻筋に貼り、切込みがある部分をカテーターに巻きつける。もう1枚は頬筋に縦長に貼る	36
37	切込みのない部分を鼻筋に貼り、切込みがある部分をカテーターに巻きつける。もう1枚は頬筋に縦長に貼る	37
38	カテーターの鼻穴部分に巻いた糸の両端を鼻筋で縦長に貼る。もう1枚は鼻下に縦長に貼る	38
39	カテーターの鼻穴部分に巻いた糸の両端を、1枚は鼻下、もう1枚は頬筋に縦長に貼る	39
40	1枚は鼻下に縦長に貼り、残りの2枚は間隔をあけて頬筋に縦長に貼る	40
41	カテーターに1回巻き鼻下から頬筋にかけて縦長に貼り、その上に2枚目を重ねて貼る。3枚目は頬筋に縦長に貼る	41
42	カテーターに1回巻き鼻下に貼る。残りの2枚は間隔をあけて、カテーターに1回巻いて頬筋に縦長に貼る	42
43	切込みのない部分を鼻筋に貼り、切込みがある部分をカテーターに巻きつける。2枚目は鼻筋で縦長に貼る。3枚目は頬筋に縦長に貼る	43
44	切込みのない部分を鼻筋に貼り、切込みがある部分をカテーターに巻きつける。残りの2枚は間隔をあけて、カテーターに1回巻いて頬筋に縦長に貼る	44
45	カテーターの鼻穴部分に巻いた糸の両端を、1枚は鼻下、もう1枚は頬筋に縦長に貼る。3枚目は鼻筋でカテーターを頬筋で縦長に貼る	45

末梢静脈留置カテーテル刺入部の固定法

第2回調査

新生児（低出生体重児を含む）に適した末梢静脈留置カテーテル刺入部の固定法について、適していると思われる方法を別紙の図で示した方法から3つ選び、適していると思われる順に、番号を回答用紙の第2調査欄に書いてください。3つ選ぶのが難しい場合は1つないし2つでも結構です。ただし、必ず順位づけをしてください。

- * 今回の調査では、延長チューブやシーネの固定、絆創膏の種類については検討内容から除外しています。
- * 絆創膏の幅は1インチ（2.54cm）を基本とし、細めの絆創膏は1/2インチ（1.25cm）と考え、およその目安としてください。
- * 手順1、手順2とあるのは、絆創膏を次々と重ねて貼っていく状況です。
- * 「切り込み」とは、絆創膏に切り込みを入れたものを示します。
- * 手順2のところは1枚、2枚とあるのは、手順2で使用する絆創膏の枚数を示します。
- * 図の点線部分は、下側の絆創膏を示します。

第2回調査では、第1回調査結果と、方法決定に際しての評価項目を参考に、再検討してください。

末梢静脈留置カテーテル刺入部の固定法の評価項目

- 1) 刺入部の観察ができるか
- 2) 刺入部の固定が十分できるか
- 3) 接続部分の固定ができるか
- 4) 皮膚に付着する絆創膏の面積は必要最小限か
- 5) 絆創膏や使用物品による圧迫はないか
- 6) コストはどうか

末梢静脈留置カテーテル刺入部の固定法

回答用紙

1位から3位を選び、第2回調査の欄に記入してください。

固定法No.	第1回調査結果			第1回調査のあな たの選択	第2回調査
	順位	総得点数	順位		
1	1	630	1	55	
2	3	285	3	31	
3	/	0	/	0	
4	9	125	9	13	
5	17	40	15	4	
6	18	20	19	2	
7	6	175	5	19	
8	5	195	8	15	
9	18	20	18	3	
10	2	360	2	35	
11	11	90	11	8	
12	/	0	/	0	
13	/	0	/	0	
14	20	5	20	1	
15	10	95	11	8	
16	4	225	4	27	
17	15	50	15	5	
18	13	80	14	7	
19	11	90	10	10	
20	7	170	7	16	
21	14	65	11	8	
22	8	145	6	18	
23	/	0	/	0	
24	16	45	15	4	
25	/	0	/	0	

経末梢中心静脈カテーテルの固定法

(PIカテーテルの固定法)

第2回調査

新生児（低出生体重児を含む）に適した経末梢中心静脈カテーテル（PIカテーテル）刺入部の固定法について、適していると思われる方法を別紙の図で示した方法から3つ選び、適していると思われる順に、番号を回答用紙の第2調査欄に書いてください。3つ選ぶのが難しい場合は1つないし2つでも結構です。ただし、必ず順位づけをしてください。

- * 今回の調査では、延長チューブやシーネの固定、絆創膏の種類については検討内容から除外しています。
- * 絆創膏は、清潔が維持されたもので、滅菌処理を加えたものではないものとしています。
- * 手順1、手順2とあるのは、絆創膏や透明フィルム、圧迫止血用の材料を次々に重ねながら貼っていく状況です。

第2回調査では、第1回調査結果と、方法決定に際しての評価項目を参考に、再検討してください。

経末梢中心静脈カテーテルの固定法の評価項目

- 1) 絆創膏を貼る位置が唾液で汚染されないか
- 2) チューブを左右・上下に引き合う力は均等か
- 3) 皮膚に付着する絆創膏の面積は必要最小限か

経末梢中心静脈ライン(PIカテーテル)の固定法

回答用紙

1位から3位を選び、第2回調査の欄に記入してください。

固定法No.	第1回調査結果			第2回調査	
	順位	総得票数	順位	総得票数	順位
1	1	560	1	43	
2	2	305	2	29	
3	3	75	10	9	
4	5	195	5	23	
5	3	270	3	27	
6	4	225	4	24	
7	31	5	27	1	
8	17	40	16	5	
9	9	110	9	11	
10	13	75	10	9	
11	11	80	10	9	
12	8	130	7	16	
13	19	30	19	3	
14	23	15	22	2	
15	15	65	15	7	
16	23	15	22	2	
17	29	10	27	1	
18	23	15	19	3	
19	17	40	18	4	
20	6	190	6	17	
21	11	80	10	9	
22	7	145	8	12	
23	10	90	10	9	
24	16	50	16	5	
25	0	0	0	0	
26	31	5	17	1	
27	21	25	22	2	
28	21	25	22	2	
29	29	10	27	1	
30	23	15	22	2	
31	0	0	0	0	
32	23	15	27	1	
33	0	0	0	0	
34	23	15	27	1	
35	0	0	0	0	
36	19	30	19	3	

身体の抑制・固定法

第2回調査

チューブやカテーテルが挿入されている次の4つの状況にある新生児（低出生体重児を含む）の身体の抑制・固定法について、体位別（仰臥位・側臥位・腹臥位）に答えてください。適切と思われる方法を、各々3つ選び、適切と思われ順に、番号を回答用紙の第2調査欄に書いてください。3つ選ぶのが難しい場合は1つないし2つでも結構です。ただし、必ず順位づけをしてください。

- A：新生児の状況は、気管内挿管・血管確保・栄養カテーテル挿入中です。
- B：新生児の状況は、血管確保と栄養カテーテル挿入中です。
- C：新生児の状況は、栄養カテーテル挿入中です。
- D：新生児の状況は、血管確保中です。

第2回調査では、第1回調査結果を参考に、再検討してください。また、最後の追加質問にもお答えください。身体抑制・固定法に関する回答用紙は全部で5枚です。

身体抑制・固定法 回答用紙(A)

1位から3位を選び、第2回調査の欄に記入してください。

新生児の状況		第1回調査結果		第2回調査	
固定法№	順位	総得点	順位	総得点	順位
39	1	670	1	51	
40	6	105	6	12	
41	15	30	15	5	
42	7	95	7	9	
43	4	170	4	20	
44	21	35	19	4	
45	12	60	11	6	
46	34	15	32	2	
47	3	210	3	21	
48	37	10	32	2	
49	30	25	19	4	
60	13	55	15	5	
61	23	30	29	3	
62	15	50	11	6	
63	11	70	11	6	
64	0	0	0	0	
65	23	30	19	4	
66	18	40	19	4	
67	18	40	19	4	
68	5	150	5	14	
69	2	240	2	24	
70	0	0	0	0	
71	32	20	32	2	
72	37	10	36	1	
73	21	35	19	4	
74	30	25	19	4	
75	0	0	0	0	
76	0	0	0	0	
77	0	0	0	0	
78	0	0	0	0	
79	40	5	36	1	
80	34	15	36	1	
81	40	5	36	1	
82	23	30	29	3	
83	17	45	11	6	
84	0	0	0	0	
85	0	0	0	0	
86	37	10	36	1	
87	32	20	32	2	
88	23	30	19	4	
89	13	55	15	5	
90	18	40	15	5	
91	8	85	8	8	
92	23	30	29	3	
93	34	15	36	1	
94	23	30	19	4	
95	23	30	19	4	
96	10	75	8	8	
97	8	85	10	7	

側臥位		第1回調査結果		第2回調査	
固定法№	順位	総得点	順位	総得点	順位
26	1	600	2	600	
27	13	35	13	35	
28	6	180	6	185	
29	12	45	10	45	
30	11	55	12	55	
31	4	335	3	335	
32	9	75	9	75	
33	7	120	7	120	
34	2	555	1	570	
35	10	65	10	65	
36	8	85	8	85	
37	5	290	5	290	
38	3	385	4	385	

身体抑制・固定法
回答用紙(B)

1位から3位を選び、第2回調査の欄に記入してください。

新生児の状況:栄養カテーテル挿入中・血管確保中

調査No.	第1回調査結果			第2回調査		
	順位	総得点	順位	総得点	順位	総得点
39	1	1090	1	80		
40	3	340	3	39		
41	0	0	0	0		
42	0	0	0	0		
43	10	40	10	4		
44	4	200	4	25		
45	5	95	5	14		
46	8	75	6	10		
47	2	500	2	53		
48	0	0	0	0		
49	4	225	4	30		
50	23	5	19	1		
61	0	0	0	0		
62	14	15	13	2		
63	14	15	19	1		
64	0	0	0	0		
65	0	0	0	0		
66	17	10	13	2		
67	0	0	0	0		
68	0	0	0	0		
69	11	30	10	4		
70	17	10	13	2		
71	12	20	12	3		
72	7	80	7	9		
73	5	90	8	8		
74	9	45	9	6		
75	0	0	0	0		
76	0	0	0	0		
77	0	0	0	0		
78	0	0	0	0		
79	0	0	0	0		
80	0	0	0	0		
81	0	0	0	0		
82	0	0	0	0		
83	17	10	13	2		
84	12	20	13	2		
85	17	10	19	1		
86	4	24	0	0		
87	0	0	0	0		
88	0	0	0	0		
89	0	0	0	0		
90	17	10	13	2		
91	2	575	2	63		
92	0	0	0	0		
93	5	13	1	0		
94	4	215	3	28		
95	5	145	5	16		
96	7	130	8	11		
97	10	45	10	5		
98	10	45	10	5		

身体抑制・固定法
回答用紙(C)

1位から3位を選び、第2回調査の欄に記入してください。

新生児の状況:栄養カテーテル挿入中

調査No.	第1回調査結果			第2回調査		
	順位	総得点	順位	総得点	順位	総得点
39	1	1165	1	82		
40	3	400	3	44		
41	0	0	0	0		
42	0	0	0	0		
43	6	70	6	9		
44	7	50	8	5		
45	4	95	4	14		
46	5	75	5	11		
47	2	510	2	59		
48	0	0	0	0		
49	0	0	0	0		
60	0	0	0	0		
61	16	5	15	1		
62	0	0	0	0		
63	12	25	13	2		
64	0	0	0	0		
65	15	10	15	1		
66	14	15	12	3		
67	0	0	0	0		
68	0	0	0	0		
69	8	45	7	7		
70	0	0	0	0		
71	16	5	15	1		
72	11	30	11	4		
73	9	40	8	5		
74	10	35	8	5		
75	0	0	0	0		
76	0	0	0	0		
77	0	0	0	0		
78	0	0	0	0		
79	0	0	0	0		
80	0	0	0	0		
81	0	0	0	0		
82	0	0	0	0		
83	13	20	13	2		
84	0	0	0	0		
85	0	0	0	0		
86	0	0	0	0		
87	0	0	0	0		
88	0	0	0	0		
89	0	0	0	0		
90	0	0	0	0		
91	0	0	0	0		
92	16	5	15	1		
93	0	0	0	0		
94	0	0	0	0		
95	0	0	0	0		
96	0	0	0	0		
97	0	0	0	0		

身体抑制制・固定法
回答用紙(D)

1位から3位を選び、第2回調査の欄に記入してください。

新生児の状況・血管確保中

順位	第1回調査結果		第2回調査	
	順位	総得点		
1	1200	1	87	
2	395	3	45	
3	70	7	8	
4	0	0	0	
5	0	0	0	
6	4	265	4	32
7	5	160	5	20
8	3	330	2	46
9	12	5	12	1
10	10	20	10	3
11	0	0	0	0
12	0	0	0	0
13	0	0	0	0
14	0	0	0	0
15	9	45	9	6
16	12	5	12	1
17	0	0	0	0
18	6	110	6	12
19	7	85	7	8
20	10	20	10	3
21	0	0	0	0
22	0	0	0	0
23	0	0	0	0
24	0	0	0	0
25	0	0	0	0

順位	第1回調査結果		第2回調査	
	順位	総得点		
26	1	1070	1	79
27	3	230	3	29
28	9	40	9	6
29	5	150	5	19
30	8	95	7	12
31	2	465	2	57
32	12	10	11	2
33	12	10	13	1
34	4	190	4	25
35	6	140	6	16
36	7	110	8	8
37	9	40	10	4
38	11	15	11	2

追加質問

あなたの施設では新生児をどのような体位で寝かせていますか？行っている体位すべてに○をつけてください。

- 1. 仰臥位
- 2. 側臥位
- 3. 腹臥位

注：原則として行っていない体位については○をつけないでください。

順位	第1回調査結果		第2回調査	
	順位	総得点	順位	総得点
39	1	1070	1	80
40	3	365	3	40
41	0	0	0	0
42	0	0	0	0
43	9	30	11	3
44	4	180	4	22
45	5	100	5	13
46	8	60	6	8
47	2	470	2	53
48	0	0	0	0
49	0	0	0	0
50	19	5	17	1
51	0	0	0	0
52	13	15	12	2
53	0	0	0	0
54	0	0	0	0
55	15	10	17	1
56	15	10	12	2
57	0	0	0	0
58	9	30	9	4
59	0	0	0	0
60	30	9	4	0
61	0	0	0	0
62	15	10	12	2
63	7	80	6	8
64	6	85	8	7
65	9	30	9	4
66	0	0	0	0
67	0	0	0	0
68	0	0	0	0
69	0	0	0	0
70	0	0	0	0
71	13	15	12	2
72	7	80	6	8
73	6	85	8	7
74	9	30	9	4
75	0	0	0	0
76	0	0	0	0
77	0	0	0	0
78	0	0	0	0
79	0	0	0	0
80	0	0	0	0
81	0	0	0	0
82	0	0	0	0
83	15	10	12	2
84	19	5	17	1
85	15	10	17	1
86	0	0	0	0
87	0	0	0	0
88	0	0	0	0
89	0	0	0	0
90	19	5	17	1
91	0	0	0	0
92	0	0	0	0
93	0	0	0	0
94	0	0	0	0
95	0	0	0	0
96	12	20	12	2
97	0	0	0	0

資料 3

平成 16 年 12 月 1 日

NICU 看護師長 様

「NICU 看護技術標準化によるエビデンスに基づいた安全対策に関する研究」
第 3 回調査のお願い

前略

皆様には「NICU 看護技術標準化によるエビデンスに基づいた安全対策に関する研究」調査にご協力いただきありがとうございます、感謝申し上げます。

第 1 回および第 2 回調査によって、各固定法について適切と考えられる方法を順位づけることができました。

今回（第 3 回）の目的は、今後予定されている実証研究において検証する固定法（1 位、2 位）に選出された方法）についての合意を確認することです。

調査によって選出された方法を別紙に記しましたので、それをご参照のうえ、合意するかどうかを回答用紙に記入し、Fax で返信してください。

なお、このたびの第 3 回調査は、当初から承諾して下さっております 120 の全施設にご協力をお願いいたします。

返送は 12 月 9 日（木）までをお願いいたします。返送までの期日が短いことでご負担をおかけいたしますが、どうぞご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

研究代表者 横尾京子

本調査に関する連絡先：

〒794-8551 広島市南区霞 1-2-3

広島大学大学院保健学研究科 横尾京子

TEL/FAX：082-257-5360

E-mail yokoo@hiroshima-u.ac.jp

今後の予定

第 3 回調査での合意確認の後、推奨された固定法の適切性について、新生児の安全と安楽、固定の効果、実施の簡便さ等の観点から総合的に検証を行う予定です。

実証研究は、本研究の研究協力者が所属する 5 施設に協力いただき実施いたします。デルファイ調査で 1 位と 2 位に選ばれた固定法を実験群とし、協力施設で従来より行われていた方法を対照群とします。

第 3 回調査 回答用紙

FAX 082-257-5361

施設名

- 各固定法について、2 つの質問に対して該当する回答にチェック(レ)をしてください。
- 「合意しない」または「いいえ」を選択した場合には、その理由もお答えください。また、「その他」の場合には具体的に書き添ってください。

技術	質問	1. 検証する看護方法として、この 2 方法に合意しますか？	2. 第 2 回調査の際、基準について少しでも再検討しましたか？
気管内チューブ 新生児の体重が小さい・体動が 少ない場合	<input type="checkbox"/> 合意する <input type="checkbox"/> 合意しない 「合意しない」理由は <input type="checkbox"/> 基礎が日常実践的でなかった <input type="checkbox"/> 施設の方法が含まれていなかった <input type="checkbox"/> その他（具体的に書いてください）	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ 「はい」の理由は <input type="checkbox"/> 時間がなかったから <input type="checkbox"/> 基準が妥当ではない <input type="checkbox"/> その他（具体的に書いてください）	
気管内チューブ 新生児の体重が大きい・体動が 多い場合	<input type="checkbox"/> 合意する <input type="checkbox"/> 合意しない 「合意しない」理由は <input type="checkbox"/> 基礎が日常実践的でなかった <input type="checkbox"/> 施設の方法が含まれていなかった <input type="checkbox"/> その他（具体的に書いてください）	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ 「はい」の理由は <input type="checkbox"/> 時間がなかったから <input type="checkbox"/> 基準が妥当ではない <input type="checkbox"/> その他（具体的に書いてください）	
末梢留置留置カテーテル	<input type="checkbox"/> 合意する <input type="checkbox"/> 合意しない 「合意しない」理由は <input type="checkbox"/> 基礎が日常実践的でなかった <input type="checkbox"/> 施設の方法が含まれていなかった <input type="checkbox"/> その他（具体的に書いてください）	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ 「はい」の理由は <input type="checkbox"/> 時間がなかったから <input type="checkbox"/> 基準が妥当ではない <input type="checkbox"/> その他（具体的に書いてください）	
栄養カテーテル（経口挿入）	<input type="checkbox"/> 合意する <input type="checkbox"/> 合意しない 「合意しない」理由は <input type="checkbox"/> 基礎が日常実践的でなかった <input type="checkbox"/> 施設の方法が含まれていなかった <input type="checkbox"/> その他（具体的に書いてください）	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ 「はい」の理由は <input type="checkbox"/> 時間がなかったから <input type="checkbox"/> 基準が妥当ではない <input type="checkbox"/> その他（具体的に書いてください）	
栄養カテーテル（経鼻挿入）	<input type="checkbox"/> 合意する <input type="checkbox"/> 合意しない 「合意しない」理由は <input type="checkbox"/> 基礎が日常実践的でなかった <input type="checkbox"/> 施設の方法が含まれていなかった <input type="checkbox"/> その他（具体的に書いてください）	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ 「はい」の理由は <input type="checkbox"/> 時間がなかったから <input type="checkbox"/> 基準が妥当ではない <input type="checkbox"/> その他（具体的に書いてください）	
経末梢中心静脈カテーテル	<input type="checkbox"/> 合意する <input type="checkbox"/> 合意しない 「合意しない」理由は <input type="checkbox"/> 基礎が日常実践的でなかった <input type="checkbox"/> 施設の方法が含まれていなかった <input type="checkbox"/> その他（具体的に書いてください）	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ 「はい」の理由は <input type="checkbox"/> 時間がなかったから <input type="checkbox"/> 基準が妥当ではない <input type="checkbox"/> その他（具体的に書いてください）	

調査によって選出された方法

気管内チューブ

A: 新生児の状況が、体重が小さい・体動が少ない場合

1位	II-7		口角
2位	II-2		口角

B: 新生児の状況は、体重が大きい・体動が多い状態

1位	II-2		口角
2位	VI-1	ネオパー バーの中央にETを絆創膏で固定し、 バーの両端を絆創膏で固定する。	正中

末梢静脈留置カテーテル

固定法	手順 1	手順 2	手順 3
1位 No.1	2.5cm以上の絆創膏を縦長に貼る 	細めの絆創膏を1枚クロスさせて貼る 	横長に貼る
2位 No.10	細めの絆創膏を縦長に貼る 	細めの絆創膏を1枚クロスさせて貼る 	細めの絆創膏を横長に貼る

栄養カテーテル

経口挿入

1位	No.9		口角から出たカテーテルを1回巻き頬部に貼る。 もう1枚は間隔をあけて縦長に貼る
2位	No.14		正中から出たカテーテルを下顎で縦長に貼り、もう1枚は頬部で縦長に貼る

経鼻挿入

1位	No.31		1枚はカテーテルに1回巻きその両端の鼻尖に貼り、もう1枚は頬部に縦長に貼る
2位	No.29		1枚はカテーテルに1回巻き鼻下から頬部にやや縦長に貼り、もう1枚は間隔をあけて縦長に貼る

経末梢中心静脈カテーテル (PIカテーテル)の固定法

方法	手順 1	手順 2
1位 No.1	透明フィルムを貼る 	
2位 No.2	透明フィルムを貼る 	フィルムの4辺を絆創膏で留める

固定法の比較研究

A. 目的

平成 17 年度の目的は、NICU で用いられる看護技術（チューブ・カテーテル固定法）の安全性と有効性を検証し、エビデンスに基づいた安全対策としての看護技術基準を作成することであった。

B. 研究方法

調査施設は研究協力の承諾が得られた 4 施設の NICU（三次レベル）とし、気管内チューブ（口角・正中固定）、栄養チューブ（経口・経鼻挿入）は各々 1 施設、末梢静脈留置カテーテルおよび経末梢中心静脈カテーテルは各々 2 施設において実施した。

対象の選択基準は、親から研究協力の承諾が得られた出生体重 1500 g 未満の相当体重児で、先天異常を有する新生児、鎮静剤や鎮痛剤が使用されている新生児は除外した。各固定法について、平成 16 年度に実施したデルファイ調査結果を再評価して選出した方法を比較群、比較群よりも優れていると考えた方法を実験群とし、予定外抜管頻度、再固定やチューブ入れ替えまでの日数、皮膚の変化等の観点から比較した。群の割り当ては、調査時期別とした。データ収集は、平成 17 年 8 月～平成 18 年 3 月において実施した。

分析は、統計解析ソフト SPSS11.5J を用い、記述分析、母平均値の差の検定、一元配置分散分析を行った。

C. 研究結果

1. 気管内チューブ（口角固定）

対象は 13 名の低出生体重児で、比較群と実験群 1 は各々 5 名、実験群 2 は 3 名であった。気管内チューブを固定するために絆創膏の貼付や張替えを実施したのは、比較群 15 件、実験群 1 は 14 件、実験群 2 は 9 件であった。チューブ挿入から 1 週間以内に計画的に抜管された場合は、対象外とした。

固定法の比較は、図 1 に示したように、絆創膏の形状を同一としたサイズの違いとした。比較群は縦 2.4 cm・横 8.5 cm、実験群 1 は 1.4×6.5 cm、実験群 2 は 1.4×4.5 cm とした。絆創膏は、剥離紙付き粘着性綿布弾力包帯（合成ゴム粘着）を 2 枚使用した。左右どちらの口角で固定するかによって、異なる形状の絆創膏を用いた。絆創膏の伸縮は縦方向とし、皮膚からチューブに貼付する際に伸展しないようにした。絆創膏貼付前に皮膚保護の目的で、非アルコール性皮膜（キャピロン）を使用した。

結果は表 1 に示した。処置時（絆創膏貼付や張替え）の日齢は 3 群間で差はなかったが、修正齢と体重に差を認めた。予定外抜管は 3 群において発生しなかった。絆創膏張替えまでの日数は 3 群間で差はなく、比較群は 8.8 ± 6.1 日（0～23 日）、実験群 1 は 8.4 ± 6.8 日（1～22 日）、実験群 2 は 10.1 ± 7.9 日（1～28 日）であった。張替えの理由は、唾液による絆創膏の緩みや気管内チューブ位置の補正であった。皮膚の発赤は、実験群 2 において 28 日間絆創膏の張替えを必要としなかった場合に認められた。

2. 気管内チューブ（正中固定）

対象は 6 名の低出生体重児で、比較群と実験群各々 3 名であった。気管内チューブを固定するために絆創膏の貼付や張替えを実施したのは、比較群 10 件、実験群は 6 件であっ

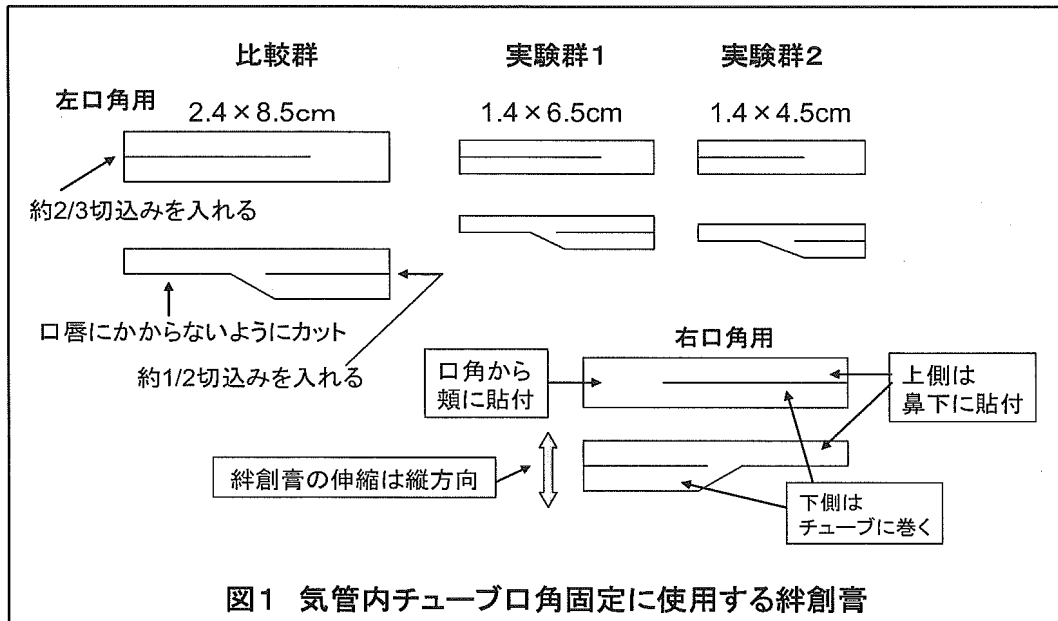


表1 対象の背景と絆創膏固定の評価（口角固定）

		比較群 n=15	実験群1 n=14	実験群2 n=9
在胎期間（週）		24～27	27	23～25
出生体重（g）		814～994	849～980	502～579
処 置 時	日齢（日）	12.0 ± 10.8	10.5 ± 12.3	12.6 ± 13.6
	修正齢（週）	27.7 ± 1.7	28.6 ± 1.6	26.0 ± 2.3
	体重（g）	859 ± 87	887 ± 87	547 ± 38
予定外抜管		なし	なし	なし
張替えまでの日数（日）		8.8 ± 6.1	8.4 ± 6.8	10.1 ± 7.9
絆創膏張替え理由				
唾液で湿潤し緩む		10 (66.7%)	3 (21.4%)	5 (55.6%)
ETの位置修正		5 (33.3)	10 (71.5)	4 (44.4)
浅くする		(2)	(6)	(2)
深くする		(2)	(4)	(2)
向き変換		(1)		
計画的な抜管		0	1 (7.1)	0
皮膚発赤		0	0	1

数字は平均値 ± 標準偏差（最小値～最大値）を示す